

産科・婦人科と乳房の疾患

(Obstetrics・Gynecology and Disease of the breast)

【責任者/担当者】

〔産科婦人科学〕馬淵 誠士 主任教授

【担当者】

〔産科婦人科学〕田中 宏幸 教授、鏑本 浩志 教授、福井 淳史 准教授、
脇本 裕 講師、山谷 文乃 講師、上田 友子 講師、
上東 真理子 助教、谷口 路善 助教、瀧本 裕美 助教、
鍋田 基生 非常勤講師、塩谷 雅英 非常勤講師、
子安 保喜 非常勤講師、柳 由紀 非常勤講師、
加藤 徹 非常勤講師、浮田 祐司 非常勤講師、
山口 由希子 非常勤講師

〔小児科学〕柴田 暁男 講師

〔乳腺・内分泌外科学〕三好 康雄 教授

〔遺伝子医療部〕澤井 英明 教授、上田 真子 助教

〔麻酔科学・疼痛制御科学〕狩谷 伸享 教授

【目的】

女性が妊娠成立する生理、正常妊娠と分娩の経過を理解する。その上で妊娠・分娩に伴う合併症を系統的に修得する。新生児の生理、周産期に関連した臨床遺伝学、産科麻酔、乳房疾患について講義を通じて身につける。

女性特有の解剖、発生、内分泌を理解し、生殖医療、周産期、腫瘍などの疾患への応用を身につける。

【科目キーワード】

「母体の解剖と生理 (Maternal Anatomy and Physiology)」「妊娠診断 (Pregnancy Diagnosis)」「妊娠合併症 (Obstetrical Complications)」「出生前診断 (Antepartum Fetal Testing)」「胎児胎盤機能検査 (Biophysical Profile Score)」「分娩機序 (Delivery)」「異常分娩 (Abnormal Labor)」「乳房疾患 (Breast Surgical Oncology Disease)」「新生児 (The Newborn Infant)」「産科麻酔 (Obstetrical Analgesia and Anesthesia)」「母子衛生統計 (Maternal and Child Health Statistics)」「周産期医療 (perinatal health)」「生殖医療 (reproduction)」「腫瘍 (gynecologic oncology)」

【到達目標(アウトカム)】

- 女性性器の構造と生理、正常妊娠による変化を説明することができる。
- 異常妊娠の病態、診断、治療を説明することができる。
- 乳房の良性および悪性疾患と乳汁分泌について説明することができる。
- 麻酔の概念・産科麻酔・無痛分娩・産科手術の概要を説明することができる。

□ 婦人科疾患の病態、診断、治療を説明することができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・地域保健や社会福祉のシステムを理解し、必要とする患者とその家族に対して、模擬的に対応できる。
- ・予防医療の理念を説明でき、地域や臨床の場での実践に必要な能力を有している。
- ・医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、保健医療法規・制度を説明できる。
- ・豊かな人間性を有し、プロフェッショナリズムを模擬的に実践できる。
- ・人体構造・機能を理解したうえで、質の高い医療を模擬的に実践できる。
- ・医療へのかかりやすさ(accessibility)の重要性を説明できる。
- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなるチーム医療を修得している。
- ・様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちや背景を理解している。
- ・難治性の痛みを含め、患者の苦痛を理解できる。
- ・自己管理能力を身に付け、能動的に医学を学修できる。
- ・同級生へ指導・助言ができる。
- ・患者の症状と身体所見、検査所見に基づいた鑑別診断を模擬的に実施できる。
- ・総合的・科学的に課題を捉えて ICT を活用し、臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価することができる。
- ・検査や基本的手技を説明できる。
- ・緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な対応を理解できる。ACLS を理解し、BLS を実施できる。
- ・患者及び医療従事者にとって安全な医療を説明できる。安全管理及び危機管理を理解している。
- ・各疾患の病因・病態を説明できる。
- ・基本的治療法を説明できる。
- ・健康な社会づくりを理解している。
- ・医の倫理、生命倫理について理解している。
- ・他者を理解し、互いの立場を尊重できる。
- ・他者の立場を考えて接することができる。

【概要ならびに履修方法】

特記なし

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

講義までに教科書の該当する部分を、1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

- ・定期試験 筆記 50% マークシート 50%
- ・講義への出欠も最終評価に加味する。

【学生への助言】

理解できないところがあれば積極的に質問すること。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(特に低正答率問題)。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

- ・遅刻・早退は原則認めない。
- ・講義中は私語を慎み、講義で使用しない電子機器操作を禁止する。

【教科書】

Moodle2 からテキストデータをダウンロードする

【参考書】

- 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科(第4版)」医療情報科学研究所 編(Medic Media) 2018年
- 「病気がみえる vol.10 産科(第4版)」医療情報科学研究所 編(Medic Media)2018年
- 「産科合併症(改訂第2版)」村田雄二 編(メディカ出版)2013年
- 「合併症妊娠(改訂第3版)」村田雄二 編(メディカ出版)2011年
- 「講義録 産科婦人科学」石原理、他 編(メジカルビュー社)2010年
- 「最新産科学 正常編(改訂第23版)」荒木勤、鈴木俊治 著(文光堂)2023年
- 「最新産科学 異常編(改訂第23版)」荒木勤、鈴木俊治 著(文光堂)2023年
- 「周産期医学必修知識(第8版)」(周産期医学 2016年 Vol.46 増刊号)
周産期医学編集委員会 編(東京医学社)2016年
- 「周産期医学必修知識(第9版)」(周産期医学 2021年 Vol.51 増刊号)
周産期医学編集委員会 編(東京医学社)2021年
- 「Williams Obstetrics (25th ed)」Cunningham F. 著(McGraw-Hill)2018年
- 「Williams Obstetrics (26th ed)」Cunningham F. 著(McGraw-Hill)2022年

「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020」日本産科婦人科学会 編(日本産科婦人科学会)
2020年

「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023」日本産科婦人科学会 編(日本産科婦人科学会)
2023年

「標準産科婦人科学(第4版)」岡井崇、他 編(医学書院)2011年

「標準産科婦人科学(第5版)」綾部琢哉、板倉敦夫 編(医学書院)2021年

「ムーア人体発生学(原著第8版)」Keith L. Moore、他 著 瀬口春道 監訳(医歯薬出版)
2011年

「ムーア人体発生学(原著第11版)」Keith L. Moore、他 著 大谷浩 監訳(医歯薬出版)
2022年

「不妊・不育診療指針」柴原浩章 編著(中外医学社)2016年

「今日の不妊診療(新版)」鈴木秋悦 編(医歯薬出版)2013年

「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2020」日本産科婦人科学会 編 2020年

「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2023」日本産科婦人科学会 編 2023年

【連絡先】

1号館 6階 産科婦人科学 医局